



Press Release

第 8 回 連続講座

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目 4-24
TEL 06-6375-3202 FAX 06-6375-3229

『いのち』を考える 開催

J R 西日本あんしん社会財団では、平成 24 年度より、死や悲嘆・グリーフケアはもとより、多様な観点から「いのち」に焦点を当て、ともに考える連続講座を開催しているところです。

平成 27 年度は、年 3 回（春、秋、冬）開催することを計画しております。

なお、5 月より第 8 回目となる連続講座「『いのち』を考える」～今を生き 未来をはぐくむ～を以下のとおり開催することといたしましたのでお知らせいたします。

1. 日 時 平成 27 年 5 月 15 日から平成 27 年 6 月 19 日の毎週金曜日 18:30～20:00（計 6 回）

2. 会 場 毎日新聞オーバルホール（毎日新聞ビル地下 1 階）

3. 講 師（敬称略）

①	5/15	松野 明美	元オリンピックランナー、タレント、熊本市議会議員
②	5/22	小澤 竹俊	医師、在宅ホスピス専門医
③	5/29	山下 京子	「彩花へ 生きる力をありがとう」著者
④	6/ 5	小寺 洋一	臨床心理士、スクールカウンセラー
⑤	6/12	家田 荘子	作家、高野山真言宗僧侶
⑥	6/19	岩崎 順子	いのちの講演家

4. 主催等

主催：公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団

協力：西日本旅客鉄道株式会社

5. 定 員

480 名（参加無料）

6. 応募方法

- ・ホームページ（<http://www.jrw-relief-f.or.jp/>）からご応募ください。
- ・6 週連続して出席いただける方を対象とします。
- ・応募締切：平成 27 年 4 月 10 日（金）
- ・応募多数の場合は抽選の上、結果をメールでお知らせします。
- ・受講には受講証が必要です。（4 月 30 日頃発送予定）
- ・ご応募でいただいた個人情報、当講座の運営及び財団からのお知らせ以外の目的には使用しません。
- ※上記による応募ができない場合は、ハガキに「連続講座受講希望」と明記の上、氏名（要フリガナ）、郵便番号、住所、電話番号を記載し、下記の宛先へお送りください。結果は受講証の発送をもって代えさせていただきます。（ハガキ 1 枚につき 1 名様のお申込みとさせていただきます。）

〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目 4 番 24 号

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団

7. その他

- ・都合により急遽講演内容等を変更する場合があります。
- ・当日の取材はお断りさせていただきます。
- ・講座の内容は、ホームページ（<http://www.jrw-relief-f.or.jp/>）でもご覧いただけます。

別紙

第8回連続講座『いのち』を考える 講師プロフィール

日程	講師 (敬称略)	プロフィール
5/15 (金)	松野 明美 (まつの あけみ) 元オリンピックランナー、タレント、 熊本市議会議員 【演題】 いちばんじゃなくて、いいんだね ～生まれてきてくれて、ありがとう～	駆け足が遅く、いじめられっ子でおとなしい性格だったが、小学校5年生のときに出場した町内陸上大会で優勝。1位でゴールしたときの両親の笑顔がうれしくて、マラソンに目覚め、「いちばんを目指す人生」が始まる。 1987年に初出場した全日本実業団対抗女子駅伝で12人をごぼう抜きし、一躍注目のランナーとなる。1988年、ソウルオリンピック1万メートル競技に出場。人の2倍、3倍、それでもだめなら4倍の猛練習をし、数々の記録を残す。 2002年に長男が誕生。翌年、次男がダウン症という障がいを持って生まれる。「明るく元気な松野明美」のイメージが崩れてはいけないと次男を一生隠そうと決心するが、日々の成長や笑顔が、著者の心を少しずつ変化させる。次男の子育てを通じて、「人生は人との競争じゃない、いちばんじゃなくていい」と気づかされる。著書に「いちばんじゃなくて、いいんだね。」
5/22 (金)	小澤 竹俊 (おざわ たけとし) 医師、在宅ホスピス専門医 【演題】 緩和ケアから学ぶ“いのちの授業” ～苦しみ・悲しみから学ぶ自尊感情・自己肯定感～	世の中で一番苦しんでいる人のために働きたいと願い、医師を志す。1987年東京慈恵会医科大学医学部医学科卒業。1991年山形大学大学院医学研究科医学専攻博士課程修了。救命救急センター、農村医療に従事した後、94年より横浜聖生病院内科・ホスピス勤務。1996年にはホスピス病棟長となる。2006年めぐみ在宅クリニックを開院、院長として現在に至る。 「自分がホスピスで学んだことを伝えたい」との思いから、2000年より学校を中心に「いのちの授業」を展開。一般向けの講演も数多く行い、「ホスピスマインドの伝道師」として精力的な活動を続けてきた。 2013年より、人生の最終段階に対応できる人材育成プロジェクトを開始し、多死時代にむけた人材育成に取り組んでいる。 著書に、「小澤竹俊の緩和ケア読本―苦しむ人と向き合うすべての人へ」「医療者のための実践スピリチュアルケア―苦しむ患者さんから逃げない!」「いのちはなぜ大切なのか」他
5/29 (金)	山下 京子 (やました きょうこ) 「彩花へ 生きる力をありがとう」著者 【演題】 彩花がおしえてくれた幸福 (しあわせ) ～絶望の中に希望を拓くとき～	1997年 神戸連続児童殺傷事件で長女・彩花さんを亡くす。 1997年 1冊目の手記「彩花へ『生きる力』をありがとう」を上梓 1998年 2冊目の手記「彩花へふたたび あなたがいてくれるから」を上梓 1999年 アメリカの犯罪被害者遺族の生き方に感銘し、POMC (Parents of Murdered Children) (子どもを殺された親の会)の慰霊祭に東洋人として初めて参加。このときの出会いが、こんにちの講演や寄付活動の原点となる。 2000年 乳がんを発病する。 2003年 3冊目の手記「彩花がおしえてくれた幸福 (しあわせ)」を上梓 2005年 乳がん再発転移 闘病を経て現在に至る。
6/ 5 (金)	小寺 洋一 (こでら よういち) 臨床心理士、スクールカウンセラー 【演題】 やってみて力を出し合っ	1992年 立命館大学に在学中の21歳のときに、大学で化学の研究中に事故でけが。 1993年 7月には両目とも失明。 1993～95年 京都ライトハウスで生活訓練、盲学校で受験勉強。 1998年 甲南大学入学、心理学を専攻。 2004年 臨床心理士資格取得 (全盲では初) 現在は、京都市スクールカウンセラー、京都ライトハウスピアカウンセラー、京都府視覚障害者協会理事。 著書に「白い杖のひとり旅 ニュージージーランド手探り紀行」
6/12 (金)	家田 莊子 (いえだ しょうこ) 作家、高野山真言宗僧侶 【演題】 この世に生まれ、生きて、生かされて ～あと一歩前へ踏み出したいあなたへ～	日本大学芸術学部放送学科卒業、高野山大学大学院修士課程修了。 女優、OLなど十以上の職歴を経て作家に。1991年、「私を抱いてそしてキスして―エイズ患者と過ごした一年の壮絶記録」で大宅壮一ノンフィクション賞受賞。 2007年、高野山大学にて伝法(でんぼう)灌頂(かんじょう)を受け、僧侶に。住職の資格を持つ。高野山の奥の院、または総本山金剛峯寺に駐在(不定期)し、法話を行っている。 著作に「極道の妻たち」®、「四国八十八カ所つなぎ遍路」「少女は、闇を抜けて 女子少年院・榛名女子学園」など。
6/19 (金)	岩崎 順子 (いわさき じゅんこ) いのちの講演家 【演題】 五感で受け継がれるいのち ～父親のおなかの上で遊ぶ～	和歌山県在住。公益財団法人和歌山県人権啓発センター講師。グリーンケア・緩和ケアなどに関わりながら「いのち・人権・心・子ども・親子・高齢者・生と死」など、いろいろなテーマについて全国で講演をする。 著書に「ガンが病気じゃなくなったとき」